

平成30年度事業報告書

自平成30年4月1日 至平成31年3月31日

公益財団法人大平正芳記念財団

I. 事業活動の概要

公益財団法人として、3つの公益事業「環太平洋学術研究奨励事業」、「北京日本学
研究センターとの共同事業」、並びに「当財団の事業について普及・啓発・啓蒙を行う事業」
に関し、個々事業の公益性と運営の効率化に留意しつつ、例年事業について着実に遂行
するとともに、スポット案件についての的確に対応した。

1. 環太平洋学術研究奨励事業

[1]第34回大平正芳記念賞6件

クリスタル牌

賞金 600万円

[2]第32回学術研究助成費 該当者無し

平成30年6月12日に上記の授賞式を如水会館で行った。

2. 北京日本学研究センターとの共同事業

平成30年6月22日(水) 13:30～

於:北京日本学研究センター 多目的ホール

(1)「第十四回日本語優秀学位論文大会」表彰式

表彰式に先立ち、当財団を代表して、海野哲寿事務局長が挨拶を行った。

内容については、本報告書6頁に収録を参照。

多くの応募者の中から、次の6名に賞状と記念品の授与を行った。

| | |
|-----|---------------------------|
| 刘志毅 | 日本語連体修飾節における動詞の能動態と受動態の交替 |
| 陈婉 | 武田泰淳『風媒花』論 |

| | |
|-----|--|
| 王金芝 | 中国人日本語学習者の聴覚的語彙力に及ぼす母語の影響— 語彙知識及び単語認知速度の側面から— |
| 蔣娜 | 付喪神新考——室町期の土一揆との繋がりを中心に |
| 姜茗予 | 日本における高齢者雇用-高年齢者雇用安定法、及び労働組 合の影響 |
| 刘晓晓 | 日本における介護労働者の低賃金問題に関する一考察—介護 報酬制度の検討を中心に |

3. 当財団の事業について普及・啓発・啓蒙を行う事業

(1) 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット及び「大平正芳記念財団レポート」発行事業

①「大平正芳記念財団の事業」パンフレットの発行

ア. 「大平正芳記念財団の事業」パンフレット

イ. 「大平正芳記念財団の事業活動」(平成29年6月から同30年5月
まで)パンフレットに掲載

②「大平正芳記念財団レポート」第36号の発行

(2) 日中平和友好条約締結40周年記念・日中協会訪中団

平成30年8月23日～25日

大平裕理事、大西宏一出席

(3) 平成30年8月 大平正芳関係文書国立国会図書館憲政資料室に寄贈

(4) 平成30年12月 大平正芳・中国改革開放改革友誼賞受賞

(5) その他

① マスコミ取材対応

・平成30年7月30日 石破茂議員「大平正芳記念館」来館マスコミ各社

② 平成30年7月 大平文書データベース・アーカイブ正式リリース 丸善雄松堂

③ 財団所蔵写真等貸与対応等

・平成30年5月 「大平関係文書」カタログ表紙用写真提供

・平成30年7月 テレビ朝日「ミラクル9」写真提供

- ・平成30年8月 『「大平学校」と戦後日中教育文化交流』日本僑報社
毎日新聞に広告掲載
- ・平成30年8月 「市民のつどい」(高松市)情報・写真提供
- ・平成30年10月 日中協会会報に原稿・写真提供(大平裕)
- ・平成30年11月 一橋大学学園祭 YMCA ブース色紙・写真展示
- ・平成30年12月 中国改革開放40周年記念シンポジウム写真提供
- ・平成31年2月 テレビ東京「なないろ日和」写真提供
- ・平成31年2月 NHK-BS1「中国改革開放を支えた日本人」写真提供

④FACEBOOK で情報発信開始

II 本年度中の主な庶務事項

1. 理事会・評議員会

(1)平成30年5月25日開催 臨時理事会(決議の省略(書面表決))

- ①平成29年度事業報告案及び収支決算案承認の件
- ②内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)宛定期提出書類案
(平成29年度事業報告及び収支決算に係る)承認の件
- ③定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等決定の件

(2)平成30年6月12日開催 通常理事会、定時評議員会

- ①平成29年度事業報告案及び収支決算案承認の件(評議員会マター)
- ②内閣府宛定期提出書類案承認の件
- ③評議員退任の件
- ④理事選任の件
- ⑤特定寄附金募集承認の件(理事会マター)
- ⑥大平正芳記念賞特別賞副賞賞金承認の件

(3)平成31年1月31日開催 臨時理事会 決議の省略(書面表決)

- ①財団事務所移転承認の件

(4)平成31年2月26日開催 臨時理事会

- ①評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等決定の件

(5)平成31年3月18日開催 通常理事会、臨時評議員会

- ①2019年度事業計画案及び収支予算案承認の件

2. 運営・選定委員会

本年度中に計4回開催し、第35回大平正芳記念賞・第33回学術研究助成費授賞者を決定した。ただし学術研究助成費は該当者無し。

なお、第7回鈴木 三樹之助記念・岩手大学大学院奨学金支給に関して、応募者はなかった。

3. 主務官庁関係事項

平成30年6月29日、内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)宛に、平成29年度事業報告及び収支決算に係る、定期提出書類の届出を行った。

平成30年6月29日 役員変更届けを行った。

平成31年3月25日 財団事務所住所変更届を行った。

平成31年3月25日、内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)宛に、2019年度事業計画及び収支予算に係る、定期提出書類の届出を行った。

平成30年度事業報告書の付属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項」に規定する、事業報告の内容を補足する重要な事項はないことから、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第123条」に定める、平成30年度事業報告書の付属明細書に記載する事項はありません。

2018年度 日本語優秀学位論文表彰式、日本学術名著発刊式 御挨拶

大平正芳記念財団 事務局長 海野 哲寿

2018.6.22

只今ご紹介にあずかりました大平正芳記念財団事務局長の海野哲寿でございます。財団を代表し一言ご挨拶申し上げます。

本日は、北京外国語大学郭連友先生、丁紅衛先生、そして国際交流基金北京文化センターより黄海存様にもご臨席いただき有り難く御礼申し上げます。

大平正芳は、1979年12月、亡くなる6カ月前にあたりますが、3回目の訪中、内閣総理大臣として初めての公式訪問をいたしました。

その時の主要なテーマは、円借款と無償援助契約を締結し日中間の経済協力関係の確固たる基礎を築くことでしたが、併せてそれらのテーマに加え、大平正芳からのたつての提案により日中文化交流協定が結ばれたことでもあります。

その具体案の一つとして「日本語研修センター」の設立が提案され、それが「日本語教師研修班」＝「大平班」もしくは「大平学校」として成果をあげ、更には1985年に「北京日本語学研究センター」として発展的に再編され、今日の隆盛に至っていることでもあります。

その間の経緯などは、平成27年度第29回大平正芳学術研究助成によって作られ、本年出版されました孫曉英さんの『「大平学校」と戦後日中教育文化交流』に詳しく紹介されております。後でお読みになっていただければ幸いに存じます。

また、本日は『硯滴考』という小冊子をお持ちいたしました。これは大平正芳が生前新聞に発表した原稿や論文・エッセイを半年ごとに小冊子『硯滴』にまとめみなさんにお届けしておりました。「中身の濃い小冊子」ということで評判になり、大平思想の理解・普及に一役かっておりました。それにならい『硯滴考』としてシリーズとしての刊行を本年度より企画いたしました。ご興味のある方はお読みいただければ幸いに存じます。

私ども大平正芳記念財団と致しましても、大平正芳の意思を受け継ぎ、大平文庫の寄贈、日本語優秀学位論文表彰・日本学術名著発刊等の共同事業を通じ、文化の交流に寄与してまいりました。

日本語優秀学位論文表彰は本年で14回目となります。

今後も貴大学の更なる発展と、日本語学研究センターで学ばれている皆さんが日中友好の懸け橋になられるよう、微力ながらこれからもご支援を継続してまいり所存であります。

それでは、ご来賓の方々のご挨拶をいただいた後、全校より厳選された「日

本語優秀学位論文」に対し、財団より表彰状を差し上げたいと存じます。受賞される方々のこれまでの研鑽に対し、心より敬意を表したいと存じます。
ありがとうございました。